



みんなのサンタ
— 宅幼老所「サンタのおうち」 —

特定非営利活動法人 **みんなのサンタ** 代表

にしみや けいこ
西宮 敬子さん



おもちゃ図書館Cafe Santaを開設し、それを「サンタのおうち」に拡大・進化させた、特定非営利活動法人 みんなのサンタ 代表 西宮敬子さん。

障害を持った子を育てながら、育ててきた障害者への思い。いつも行政ばかりに頼むのではなくて、地域で地域の人を支える仕組みも大事と考え、目指す地域の姿をエネルギーに語る西宮さん。やりたいことはやった方がいい、できる範囲でできたら良い、と語るそんな西宮さんの思いを今回のインタビューではお届けします。

— **今の活動を始める前は**

ミッションスクールの教員でした。横浜と東京で10年近く。礼拝で子どもたちに話しかけることや、聖書や自分の経験の話をしていました。学校の先生に憧れてなったので、すごく楽しかったです。

その後、夫の都合で2年ほどアメリカに移り、キリスト教教会でホームレスの方たちへのランチサービスのボランティアをしていました。

帰国後、一旦は教員に戻りましたが、子どもの一人が重い障害を持って生まれたので、続けられませんでした。それから20年以上、育児と、障害を持ちながらも、うまく成長していけるようにするための治療教育をやっていました。普通の子だと自然に覚えていくようなこともじっくり教えていきました。

それでも重度なので、すごく苦労しましたが、最後に行った療育園の先生が明るい希望も話してくださったので、それを胸に秘めながら頑張っていました。

— **「おもちゃ図書館」との出会い**

うちの子はおもちゃを与えても分解してしまい、ずっとおもちゃで遊ぶことができなかったのですが、通っていたことばの相談室の上に「おもちゃ図書館」がありました。そこにあったオルゴールのおもちゃは、転がすと音楽が鳴り、耳でその音を聞いて楽しめたので、おもちゃの魅力をすごく感じました。

そのおもちゃ図書館のボランティアの方が話をよく聞いてくれ、ほっとするスペースでもありましたが、シニアのボランティアの方たちが辞めて閉鎖となりました。

おもちゃ図書館は素晴らしい活動だと思っていたので、その子が10歳になった時「全国おもちゃ図書館連絡会」におもちゃ図書館を始めたいと連絡しました。すると、どのおもちゃが欲しいですかと聞かれ、リストを出すと、全部認められ、良いおもちゃを揃えることができました。そうして2009年におもちゃ図書館を始めました。

個人・団体でも、例えば、老人ホームでおもちゃ図書館をやりたいという場合も支援を受けることができます。私は、おもちゃ図書館を始めたいという方のお手伝いもしています。



おもちゃ

— **「障害を持った子を受け入れる保育園」との出会い**

私が育てていた20年前は、2歳児の息子をすぐに保育園に入れなさいと医者に言われましたが、保育園からは、手のかかるお子さんは受けられないと断られ続け、私も息子も社会でいらぬ、と言われている気がして精神的に危機的な時期がありました。そこから抜け出せたのは、障害を持った子を受け入れるという保育園が見つかったから。6ヶ所ほど断られた後、ゆっくり話を聞いて「お母さん頑張ってきたねえ、これからこの園が受けるから、一緒に育てていこう」と言われた時は、地獄で仏に会ったようで、今でも思い出すと泣きそうになります。



サンタのおうちでパイを配る田島誠一さん(理事)

— **声をあげていかないと進まない「にじの会」**

私みたいな母親が他にもいると思い、2001年に発達に遅れのある子の保育・療育支援「にじの会」を立ち上げました。障害を持っていても、社会で生活できるよう二次障害、三次障害を防ぎたい。そのために勉強しよう。

療育の専門家の先生を呼び、教会で講演会をしたことからスタートしました。次に目が回らない子どもたちに感覚統合訓練が必要だったので、トランポリンを買い、行政に対して、置く場所と訓練する場所を貸して欲しいと、しつこく交渉しました。行政が根負けして、リハビリテーションセンターの大会議室を使って良いと、許可を貰いました。

アメリカのことわざに「キキイという車輪ほど油が貰える」というのがあるそうです。私は一生懸命にキキイ言っていたのだと思います。色々なことで前例がないと言われた時、前例にしてくれと言ったことも何回かあります。それでも断られることはありますが、でも言わなければ何も道は開けない。

— **「みんなの食堂」(子ども食堂)「フードパントリー」**

長年、おもちゃ図書館とともにお母さんたちがご飯を食べられたり、子どもたちがほっとできるスペースが一緒になったコミュニティカフェをやりたいと思っていました。



スナックバーなかじ

そして2017年「おもちゃ図書館Cafe Santa」と駄菓子屋「スナックバーなかじ」を、障害児の育児に奮闘していた私を助けてくれた「なかじ」(中島さん)と一緒に、市川市の国府台に開業しました。おもちゃ図書館の冠が付くコミュニティカフェは、多分全国的に一個しかないと思います。

2018年にはひとり親家庭や生活に困窮している世帯を助ける関係づくりの場、緩やかに地域と繋がる場にしたいと「みんなの食堂」という子ども食堂を立ち上げました。

コロナの時には、近辺の子ども食堂がやめてしまってもここだけはやっていました。みんなが元気になる芋煮を作って配ろうと、スタッフ一同頑張りました。

また、アメリカにいた時に食材を配る「フードパントリー」というのを知って、それをやろうと色々なところから助成金をもらい、食材を買って配りました。アンケートを取ってママたちが欲しい食材を買って配った事もありました。

— **「ごちゃませデイサービス(富山型デイサービスを目指す)」**

2022年に、宅幼老所「サンタのおうち」を開設。2023年に障害者共生型生活介護の指定を受けました。



デイサービス(生活介護事業)

サンタのおうちは、赤ちゃんから高齢者、障害者を受け入れ、誰も断らない場所にしたいと考えています。

赤ちゃんからお年寄りまで、障害があってもなくても一緒にケアする活動方式と、行政の柔軟な補助金の出し方を併せて「富山型デイサービス」と言われますが、それを目指しています。

高齢者だけ集まっても面白くない。そこに赤ちゃん連れのママが来ると、赤ちゃんが笑ったとか、泣いたとかで、おばあちゃんたち喜ぶわけですよ。ダッコなんかさせて貰ったら最高です。

— **「グループホームを作りたい」**

ここは一軒目ですが、もう一軒、デイサービスでお泊りができたり、お休みなく、土日も預かれるような所を作りたい。ここは月～金の朝から夕方までですが、色々な家族の事情を聴くと、もう少し長く預かって欲しいとか、お泊りもやって欲しいとか、色々要望があるので、それに応えられるものを、もうちょっと広めのところに作りたいです。そして三軒目にグループホームを作る計画を持っています。重度な子ほど、きちんとしたサービスに乗れる社会であって然るべき。だからグループホームを作りたい。

— **伝えたいこと**

みなさんには思い残すことが無いように、やりたいことを勇気をもってやって欲しい。趣味でもボランティアでも、勇気をもってやっていたら、人生が豊かになると思います。私は、息子のおかげで逆に豊かにさせていただいた感じがします。大変な時期もありましたが、息子を通して社会を見たように感じます。結構、闘ってきましたから、開けないものもあつたけど、でも頑張れば開けていくこともあるということも知りましたね。

みんなのサンタ
ホームページ

<https://toycafe-santa.jimdofree.com/>

